

## はじめに

第2回亜熱帯森林・林業研究会の定期総会・研究発表会が開催されるにあたり、ごあいさつ申し上げます。

本日の大会に遠路は熊本県、鹿児島県や沖縄県の西表島等の離島から多数の会員がお集まりいただき、このように盛大に開催されますことは意義深いことであるとともに、事務局の方々及び関係各位に心から感謝申し上げます。

さて、我が国の森林・林業は、平成13年に制定された「森林・林業基本法」に基づき、これまでの木材生産を主体とした政策から森林の多面的な機能の持続的発揮を目的とする政策に大きく転換されました。

さらに、近年の森林は、二酸化炭素の吸収源、貯蔵庫としての役割や生物多様性を保全する場として、森林の多面的機能のより一層の発揮が求められるようになってきています。

亜熱帯地域は、沖縄、奄美群島、屋久島、種子島を含む南西諸島と小笠原諸島からなり、この地域には熱帯・亜熱帯性の樹種が混在する多彩な林相と世界的に希少な種を含む多くの野生動物が生息しており、学術的にも貴重となっております。

しかしながら、亜熱帯森林・林業に関する調査・研究は様々な分野で進められておりますが、総合的なネットワークに基づく意見交換や技術情報を発表する場は確立されておられませんでした。

このため、当研究会は大学、行政、民間等の亜熱帯森林・林業に関わる会員が、これまで大学などの試験研究機関や産業分野等において研鑽されてきた、様々な技術研究及び行政で実施する施策等について、広く意見交換や情報交換を行う場を提供するとともに、さらなる研究の振興と地域及び国際貢献のできる人材の育成を推進し、さらに組織的な活動を通じて東南アジアをはじめ、亜熱帯島嶼地域への相互の発展に寄与することを目的として、平成15年3月26日に設置されたものであります。

昨年の発表会ではリュウキュウマツの密度管理試験、アカギ人工林の間伐基準、タイワンハンノキの材質特性、船浦ニツパヤシ植物群落保護林の樹勢回復試験等の熱帯・亜熱帯樹種にかかる11課題が発表され、熱心な討議が行われました。

本年も、林野庁西表森林環境保全ふれあいセンター、鹿児島県林業試験場龍郷駐在、沖縄県の森林資源研究センター等職員、林木育種センター、西表熱帯林育種技術園、琉球大学から12の研究発表があり、大変嬉しく思っております。

沖縄県の森林・林業にあつては、森林資源を活用した新たな産業の創出や、森林の多面的機能の活用と緑化推進による「美ら島」の創造に貢献しつつ、林業の持続的な発展に寄与し、貴重な森林資源を次世代に引き継いでいくことが求められております。

本日の研究会が契機となり、会員数の増加とともに、さらなる研究の振興に貢献するとともに、我が国の亜熱帯地域における森林の多様な機能の高度発揮と林業の一層の発展、そして国際森林・林業協力にも大きく貢献できますように祈念しあいさついたします。

平成18年9月1日

亜熱帯森林・林業研究会会長 篠原武夫